

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立曽根中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立曽根中学校 全校生徒 573名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 (特別活動*おもてなし講座) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ シットイングバレーボールの映像を見たり、体験をしたりする活動やオリンピック・パラリンピックの偉人を調べる活動を通して、オリンピック・パラリンピックスポーツの魅力に触れさせるとともに、多様性を尊重し、共生・共助社会の実現をしていこうとする心情を養う。 ○ おもてなし学の達人である江上先生の講座体験を通して、「おもてなしの心」やボランティア精神を育み、相手の気持ちを考えながら学校生活や地域の行事、東京オリンピック・パラリンピックに進んで関わることのできるようになる。
5 取組内容	1 パラリンピックへの理解を深めるためのシットイングバレーボール体験学習の設定 第2学年のバレーボールの学習にシットイングバレーボールの体験学習を組み込み、単元を構成した。 単元の導入時に「I'm Possible」を活用し、知的な理解を深めた後、シットイングバレーボール体験学習を設定した。生徒たちは当初シットイングバレーボールに難しさを感じていたが、予備的な活動やゲーム体験を積むにつれて、戦略を考えるまでになり、夢中になっていく姿が見られた。単元後半のバレーボールの学習にもよい効果があった。また、「失ったものを数えるな、できることを最大限に生かせ」という言葉は生徒がアスリートの気持ちに触れる貴重な一節となった。なお、第2時間目の授業では、筑波大学の福田先生に参観していただき助言を受けた。

<授業の様子>



ルール等の確認



基本的な動きを学ぶ



つなぐ楽しさを学ぶ



ゲームの様子①



ゲームの様子②



作戦タイム

2 オリピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるための「オリパラ偉人調べ」学習の設定

保健体育科の授業において過去のオリピック・パラリンピックで数々の業績を残した人物を一名選択させ、調べ、まとめる学習活動を設定した。A4一枚にまとめる活動を通して、スポーツに対する興味・関心を向上させることができた。完成した作品は文化発表会の際に掲示して、東京オリピック・パラリンピックの啓発資料として活用した。

<調べ学習を行っている様子>



パソコンを活用して調べる様子






A4用紙1枚に、まとめている様子



学習発表会での掲示の様子

3 多様な視点からグローバルマナーと「おもてなしの心」を学ぶ講座の実施

筑波大学客員教授の江上いずみ先生をお招きし、「グローバルマナーとおもてなしの心」と題して講演をしていただいた。江上先生には元日本航空 CA として30年の乗務経験を基にしたお話をいただき、グローバルマナーと「おもてなしの心」について学習を深めることができた。また、日本文化の理解を図るとともに、相手に対する心遣いや思いやりの心についても学ぶなど、人権・福祉分野にも生きる内容で、生徒の心に響く講座となった。講座の最後には、江上先生のご好意で、自らお見送りをさせていただき、生徒はおもてなしの心を実際に体感することができた。

	<p style="text-align: center;">＜講演会の様子＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;">江上先生の講話</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;">生徒との交流</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;">江上先生のお見送り</div> </div>
<p style="text-align: center;">6 主な成果</p>	<p>1 パラリンピックへの理解を深めるためのシッティングバレーボール体験学習の設定について</p> <p>学習前はパラリンピックのことを知っている生徒は少なかったが、シッティングバレーボール体験学習を通して、パラリンピックへの興味・関心をもつ生徒が多くなった。「またやってみたい」という声や「思ったより楽しい」という声が多く聞かれた。一方で、実際にゲームをすると映像で見るとはうまくいかない場面が多く、生徒は、パラリンピアンの高さと志の高さを肌で感じ取ることができたと考える。</p> <p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックは障がいがある人にしかできない特別なスポーツだと思っていたけど、今回体験してみて、障がいの有無に関係なく誰にでもできるスポーツだとわかった。 ・みんなでどうしたらボールがつながるかを考えて、試合をすることが楽しかった。 ・シッティングバレーボールを体験してみて、パラリンピック競技に興味が出た。他のパラスポーツもやってみたい。 ・「健常者」とか「障がい者」とかそんな「壁」はないことがわかった。 ・東京オリンピック・パラリンピックでシッティングバレーボール選手を応援したいと思った。 ・動画で見た時は簡単そうに見えたけど、実際にやってみるととても難しかった。チームで座り方の工夫や、フォローに行くときなど声を掛け合うことが上手くなるポイントだと感じた。 ・実際にやってみると、ビデオの時の様には上手くできずパラスポーツの難しさを感じるとともにオリンピックの技術の高さに感心した。 <p>2 オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるための「オリパラ偉人調べ」学習の設定について</p> <p>昨年は「オリンピック・パラリンピック新聞」を作成したこともあり、生徒は実施される競技についてある程度知っていた。しかし、そこで活躍した選手についてはあまり知らない様子であった。調べ学習を進めて行くことで、生徒から「こんな選手いたんだ」「この人、すごい」といった声があがり、積極的に調べ学習を行うことができた。完成した作品は文化発表会の際に展示作品として掲示することで、見学者の興味・関心を高めることができた。また、生徒のみならず、保護者や地域の人々のオリンピック・パラリンピックに対する理解を深め、興味・関心の高まりにつながったという実感を得ることができた。</p>

	<p>3 多様な視点からグローバルマナーとおもてなしの心を学ぶ講座の実施について</p> <p>江上先生の講座は全学年を対象とし、希望する保護者の参加も得て開催することができた。90分という時間が短く感じられるほど、素晴らしい内容であった。乗務経験を元にした様々な視点からの講座は、生徒のみならず教職員・保護者の心に深く刻み込まれたものを確信する。生徒は、本講座を通して、視野を広げ、将来、様々な人と接する時の心構えや態度を深く学ぶことができた。また、日常生活や今の自分を振り返ることができ、自己を向上させようとする契機にもなった。講演会の後、挨拶や言葉遣い等を意識しようとする姿が全学年で見られた。</p> <p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもてなし」の本当の意味を理解することができた。 ・日本と外国のマナーのちがいを学ぶことができた。国によるマナーのちがいを知ることで、日本のおもてなしの心が生きることに気が付いた。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高くなった。 ・日常生活の中で常におもてなしの心をもって人と接していきたい。 ・今まで自分の気持ちだけで相手に接してきたことがあり、相手の気持ちを考えて接することの大切さを学ぶことができた。 ・おもてなしの「心」を「態度」、「言葉」で表すことが大切だと感じた。 ・江上先生が「今まで誇りをもって仕事に打ち込んできたんだな。」と感じた。自分も将来、仕事に対して誇りをもってのぞもうと思った。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>(1) パラリンピック教育教材の活用</p> <p>指導者としてパラリンピックについて学ばせたいと思っ ても、教材準備に時間を要しうまくいかないことが課題とな っていた。その点、「I'm Possible」は教材としてとても整理さ れ扱いやすかった。特に、本実践では、オリンピック・パラ リンピックの歴史や意義を学ぶ場面や、シットینگバレーボ ール体験の際に動画を視聴して動き方やルールを確認する場 面では、とても有効な教材であった。今後は道徳科や総合的な学習 の時間など教科横断的に、継続して活用していきたい。</p> <p>(2) パラリンピックスポーツの教材化</p> <p>パラリンピックスポーツは運動内容という点で価値ある教材 であることはわかっていたものの、どう年間指導計画に組み込 み、教材化できるかが課題となっていた。その点、シットینگ バレーボールはバレーボールとの組み合わせ単元として扱い やすく、持続可能な教材であることが分かった。</p> <p>これまで障がい者スポーツに対して理解が薄かった生徒たち であったが、シットینگバレーボール体験を通してより身近な ものを感じられたようである。また、シットینگバレーボ ールを体験した後にバレーボールを学習したことは、多様性を尊重 し、共生・共助社会を実現していこうとする心情を養うことが できることにつながった。</p>

	<p>(3) その道の達人の考えにふれる講座の実施 マナー等については学校でも日々指導している内容である。しかし、おもてなし学の達人である著名な方を招聘し、実際に話を聞いて、その道の達人の考えに触れることは、今後の生き方において大きな意味があると考え、講座を設定した。</p>
8主な課題等	<p>○ オリンピック・パラリンピック教育を保健体育科に限らず、他の教科・領域にどのように位置づけていけていくかについて考え、計画的に実践していく必要がある。</p> <p>○ 活動を充実させていくためには、教員間でオリンピック・パラリンピック教育について理解を深め、協力体制を整え、継続的に行う必要がある。</p> <p>○ 生徒の振り返りや作品等を活かし、次年度につなげることで、教材や実践自体をレガシーとして残す必要がある。このことが持続可能な学びにつながると考える。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての理解を確かなものにする。さらに開催を自らのことと捉え、関心・意欲を高めるとともに、様々な角度から学び取る生徒を育成する。</p> <p>【具体策】</p> <p>① 保健体育科のみならず、道徳科や総合的な学習の時間と連携させた学習活動を設定する。</p> <p>② オリパラコンクール（曾根中学校独自の取組）を実施する。</p> <p>③ 夏休みの課題として東京2020で感動した・心に残った事を振り返らせ、パワーポイントを用いて文化発表会の際にパブリックビューイングを行う。</p> <p>④ オリンピックやパラリンピックに関する情報を掲示できる専用スペースを設置し、新しい情報を順次更新しながら掲示する。</p>